

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200137		
法人名	株式会社 介護施設えくぼ		
事業所名	グループホーム さくらつつみ		
所在地	〒027-0036 宮古市田鎖第5地割33-4		
自己評価作成日	令和3年8月11日	評価結果市町村受理日	令和3年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、長沢川のほとりの桜並木が続くさくらつつみ公園の近くにあり、春には桜の花が美しく咲く自然豊かな農村地域にある。グループホームは小規模多機能センターと併設になっており、小規模で通い慣れた延長で入所している方が多く、入所後も安心して生活できるようになっている。また利用者は小規模利用者と自由に交流できるようになっている。  
 昨年度はコロナウイルスの影響で殆ど地域行事が出来ず施設内行事のみになってしまったが、今年度は少しずつ学校行事などにも声をかけてもらい、地域との交流を取り戻してきている。  
 また今年度は特に施設内行事に重点を置き、それに伴って行事食などにも力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は宮古市街から少し離れた花輪地区の農村地域にあり、同じ会社が経営する小規模多機能施設を併設し、一体的な運営がなされている。地域との連携と交流を積極的に行ってきたが、コロナ禍で町内会行事等の多くが中止となるなか、地元中学校や保育所との交流は継続しており、生徒へのミニ講話やリモートでの交流会等を工夫して開催している。また、地域の医師や訪問看護師との協力のもとで看取りを行っており、ニーズに対応した医療連携体制が良く機能している。更に虐待防止の取り組みとして、職員によるセルフチェックを実践し、その結果を運営推進委員にも情報提供しながら、職員の意識向上に効果を挙げている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年8月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念や事業所の理念について、月1度のミーティングにおいて全員で唱和して確認するようにし、実践については職員それぞれが日常業務において意識して取り組んでいる。	事業所開設時に全職員で作成した理念、3つのアイ「愛、アイ(目)、会い」をホール内に掲示するほか、月1回の職員ミーティングの場で全員が唱和して意識の共有を進めている。入居者と接するなか、身体状況の変化に特に注意するなど、実践に生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの流行により、地域交流は以前の様には出来ていないが、回覧板を回したり今年になって保育園の田植えが再開し、少人数ではあるが参加することが出来た。また、リモートではあるが地元中学校との交流会も行うことができた。	町内会に加入し、回覧板等から地域の情報を入手したり、清掃活動には職員が参加している。コロナ禍で地域との交流活動が大きく制限されているなかでも、地元保育所の田植えの見学に出かけたり、中学校とはミニ講話やリモート交流会を開催し、交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学校において、高齢者や認知症の方の理解を深めていただくために、ミニ講話を行った。地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加し、地域の高齢者の方に認知症について学んでいただいた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の前は定期的に会議を開催していたが、昨年度はコロナウイルス感染防止の為運営推進会議は開催せず、資料のみ関係者に提出しているため意見は聞けていないが、今年度は8月に1回目を開催予定している。	委員として二つの地区から民生委員又は主任児童委員が参加しているが、他に地域関係者の参加がみられない。会議はコロナ禍のため昨年3月から開催はせず、資料を各委員に送付している。資料には利用者の生活状況のほか、虐待防止のセルフチェック報告も含まれ、充実している。	地域との連携を深める意味からも委員として町内会関係者の参加が期待される。また、コロナ禍のおり開催形態を书面開催とすることで委員との意見交換も可能となるので、工夫されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス関連での対策や家族からの要望などに対する支援の仕方など、状況に応じての対応の仕方など相談しながら進めることができた。担当部署との連絡は適宜行われている。	運営推進会議には市役所担当課から委員として参加している。普段から電話やメール等で情報交換や相談を行っており、コロナ禍においても、問題発生の場合には担当者に相談できる体制にある。また、地域包括支援センターとも緊急入居の受入れ等で連携している。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修をとおして、身体拘束をしないケアの仕方を学んでいる。また身体拘束をしないため自己チェックをするようにしている。 2階の階段入口は常に開いており、自由に1階と2階を行き来出来るようにしている。 移動時車椅子を使用している利用者も、体調の良い時は椅子で過ごしてもらい拘束させないようにしている。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議と併催する形で開催されており、その資料として全職員による虐待防止セルフチェック集計表を提供している。このセルフチェックの取組みを通じて職員意識の把握に努めるとともに意識向上に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年内部研修において関連法を学んだり、虐待の色々な事例の検討を行い対処方法を学んでいる。 事業所内での意識調査などを行い虐待に繋がらないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回研修会を通して学び、活用出来るよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い納得いくようにし、不安や疑問があった際はその都度説明をし理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見は随時受けるとともに、年1回顧客満足度アンケートを実施し意見を聞くようにし、面会時にも聞き取りを行いそれを運営に役立てるよう配慮している。	3、4人の利用者は言葉で意思表示ができ、希望などを聞き取ることができる。また、家族からは年1回のアンケートを通じ意向等を伺っている。 家族からはコロナ禍による面会制限に関連した希望等が多くあり、職員がスマホ動画を利用した面談を行ったりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年の振り返りや業務改善などで意見を聞くようにし、その他にも月1回のミーティング時に意見等ある際は話をしており、出来る限り反映させるようにしている。	職員からは月1回の職員ミーティングや毎朝の送りの際に意見が出されている。また、年1回は業務改善アンケートも行っており、食事準備時間の変更や、夕食時間の繰り上げなどの具体的な改善に繋げている。管理者との個人面談も行われている。	

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの状況に応じた休み希望を取り入れたり、資格取得を給与水準へ反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度はコロナウイルスの影響で、外部研修の出席がほとんど出来なかったが、開催される際には参加するようにしている。内部研修も月1回テーマを決めて実施しており出席出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で研修会や交流会の開催がなかったが、開催される際には参加させるようにしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見要望には耳を傾け、入所時には今までの暮らし方や思いの把握に努め、慣れるまでは傍に付き添い本人が安心して生活出来るよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見・要望は面談時に聞き、ミーティングに置いて職員に周知し話し合い、出来るだけ要望に応えるようにし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今必要としている支援について、職員間で話し合い、それをプランに反映させるようにし支援に繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見極め食事作りの一部を手伝って頂いたり、掃除を手伝って頂いたり出来るところは本人に行ってもらい出来ない部分を支援するようにしている。		



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響で面会に制限があるので、家族から手紙を出してもらったり、電話に出れる方には電話で話をしたり、直接会えないので動画でお互いの様子を伝えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で面会や外出することができなかったため、馴染みの人や場所との関係継続が出来なかった。	コロナ禍により外出機会が激減し、面会で来所する馴染みの人も無い状況であり、関係継続の維持が難しくなっている。中でもスマホ活用した動画による面談や個別の外出等を工夫している。散髪に訪れる訪問理容師が新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のお互いの関係を把握し、随時席替えを行ったり、仲の良い利用者同士同じテーブルに座れるようにしている。コップを持ってない方への介助も利用者がしてくれる時もあったり、食事の声掛けをしてくれる方もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも必要に応じて相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の何気ない話などで本人の思いを把握したり、本人から直接どう過ごしたいのかを聞き取りしている。	意思表示できる3, 4人の利用者からは、日常的に何気ない会話から思いや意向を把握し、介護プランの見直し時にもヒアリングを行っている。意思表示が難しい利用者は、仕草や動作、表情などから思いの把握に努め、トイレの誘導時などで実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所する際利用者の把握に努めるため「私です」という用紙に生活歴や特徴を記入してもらい個人を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のその日の心身状態を職員で共有し、利用者の状態に合わせて出来る事を行ってもらったりしている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から計画に対する希望や要望を聞いたり、ミーティングにおいては個人ケアの現状を話し合いそれを介護計画に生かすようにしている。	介護プランの原案は計画作成担当者が作成し、職員カンファレンスで検討のうえで決定している。担当職員は毎月モニタリングを行っているが、3ヵ月毎に全職員でのカンファレンスでモニタリングを行い、計画を見直している。その際は、本人の思いを聞き出したり、訪問看護師の意見も反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人ファイルに実態や気づきなどを記録し、特変があった場合は業務日誌に記録し出勤時は必ず読むようにして、情報を共有するようにしている。 また、夜間の様子は朝ミーティングにおいて申し送りカンファレンス用紙におとし、それを計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画期間内であっても状態が変わった場合は、カンファレンスを行いプランの見直しをするようにし新しいプランを立てるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前から利用していた美容院やかかりつけ医はそのまま継続しているが、コロナウイルスの影響で現在は美容院へは出かけず訪問床屋を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前のかかりつけ医を継続して利用している。また必要に応じてかかりつけ医から紹介状を出してもらい専門医を受診するようにしている。	各利用者は入居前からの市内クリニック等をかかりつけ医として受診している。通院は、コロナ禍の前は家族対応もあったが、現在は感染予防に配慮して職員が対応している。また、週2回は訪問看護師の来訪があり、医療的ケアに配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきがあった時には、訪看に伝え専門医の受診に繋げたり、次の指示を受けるようにしている。 また、急変時は電話で適切な指示を受けられるようにしている。		

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療機関に情報提供し、入院期間中には状態を聞きながら退院時には病院より情報提供して頂き利用者が安心して退院後も施設で生活出来る様医療機関との連携を図るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合についての対応の仕方など入所時に説明をしており、またレベル低下した際にも再度家族に対し説明をし、訪問看護同行のもと看取りに対応していただける医療機関に主治医変更し早い段階から看取りについての方向性を考えるようにしている。	入居時に、重度化した場合の対応について、看取りが可能であることも含めて、本人や家族に説明し了解を得ている。看取りは、市内の協力医との連携により取り組んでおり、これまで2人ほどの実績がある。看取りの希望者が増えていく傾向にあり、継続して対応していきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は訪問看護と連携し対応を確認しながらすすめている。また、年間計画の中で心肺蘇生やAEDの使い方の方の研修を行い利用者の急変に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害等の昼夜に対応した避難訓練を年間計画を立てて実施している。また避難訓練には地域住民にも声をかけ協力を得られるようにしているが、住民も高齢になり協力が難しくなっている。	5年前には、台風による大雨により当地域が浸水被害を受けている。年2回の火災訓練と1回の水害避難訓練を行っており、水害時には高台にある同一会社運営のグループホームまで車で避難している。また、火災時の訓練においては、特に2階から1階への移動の難しさを課題としている。	水害時には2階に留まるべきかどうか、火災時にはどのような避難が可能かについて、消防当局と率直な意見交換を行うことにより、実践的な訓練に繋げていこう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけには注意し、丁寧な言い方をするようにし、入浴時など男性職員を拒否している利用者には女性職員が対応し、羞恥心やプライバシーの確保に努めている。トイレにおいてはエチケットタオルを使用している。	利用者に対して馴れ馴れしい言葉遣いにならないよう注意し、声掛けは「さん」付けとしている。羞恥心への配慮として、入浴介助やトイレ介助ではエチケットタオルの使用も行っている。入浴の際に女性介護員を希望する女性利用者には、希望に沿って対応している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどう過ごしたいのか希望を聞いたり、自己決定できる状況をつくったりしている。意思表示出来ない方は表情で思いを読み取るなどして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人がどこで過ごしたいのかを聞くようにし、希望に沿った居場所で過ごすようにしている。ペースについても利用者それぞれに合わせて支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪はコロナで外出が出来ないので、月2回の訪問床屋でカットしてもらい衣類などは季節に合ったものを家族と相談しながら用意したり、ひげ剃り等は自分で出来る方には自分で剃ってもらったりしている。汚れた衣類は速やかに交換するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間計画を立て季節ごとの行事食を工夫して提供したり、利用者の咀嚼状態に合わせて食事形態を変えたりしている。現状では一緒に食事を作る利用者はいないので、野菜切や食器拭きを手伝って頂いたり、食事後の下膳は動ける利用者には行って頂いている。	会社共通の献立のほかに、職員手作りの品を加えることもある。利用者は、みそ汁の野菜を切ったり、食後の食器拭きや掃除などを手伝っている。また、ミニ菜園で収穫した新鮮なトマトやナス、キュウリを食べ、月毎のお誕生会では赤飯やケーキを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量をチェック表で確認しながら一定量を確保するようにしている。食事は無理なく完食出来るよう食事形態を工夫するようにしている。栄養が足りていない場合は家族と相談して補助食品を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態は訪看に相談して、その方に合わせた方法で対応し、自力で歯磨きが出来る方には自ら行ってもらい、出来ない方については職員が介助したりしている。		



令和 3 年度

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを排泄確認表でチェックし、個々の排泄間隔を把握し出来るだけトイレで排泄できるようトイレ誘導したりして支援している。	排泄確認票を活用して、2時間前後の間隔で個別に声掛け誘導し、見守りの支援を行っている。また、仕草を排泄サインと捉えて、随時支援している方もいる。便秘対応では、下剤の服用などの医療的な対応を行っているが、オリゴ糖と蜂蜜、牛乳を飲んで自力排便を促すなどの支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らないよう水分量を多くしたり、乳製品やオリゴ糖等を提供し、自然排便を促したりしている。排便の感覚の長い方については訪看に相談し、下剤や浣腸を利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴好きな利用者には回数を多くして対応している。入浴時間も個人の希望に合わせてゆっくりと入ってもらっている。通院時の時には前日に入れるよう支援している。温度は本人の好みに調節し季節的に菖蒲湯やみかん湯などにして入浴を楽しんでいただけるようにしている。	入浴は週2回を基本としているが、1日おきに週2、3回入浴する方もいる。1人だけは1階の小規模多機能施設の特殊浴槽を利用している。同性介助を希望する方には、希望に沿って対応している。季節に応じて菖蒲湯やみかん風呂なども楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態や体調に合わせて、休息してもらっている。また、利用者によっては午睡時間を短くして夜間に眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の用法・用量に留意し服薬支援を行っている。一人1人のお薬情報を綴っており薬の用途について常に確認出来るようにし、薬が変更になった時は状態を観察し副作用が出た時には主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の利用者の状態に合わせて、出来る事を手伝って頂き役割を持って生活する様にしている。また、年間を通して行事を計画し楽しみが持てる様支援している。		

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は、コロナウイルスの影響もあり、出掛けることが出来なかったが、ドライブを行って車からではあるが景色を眺めたりすることが出来た。 利用者の買い物や必要な物は、職員が代行で行っている。	コロナ禍の影響を大きく受けており、日常的な外出支援ができない状況が続いている。その中でも、通院機会を利用して少し遠回りをしてみたり、車から降りないで市内の観光スポットをドライブするなどの工夫を行っている。ホームの敷地内にあるミニ菜園での軽作業も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者がレベル低下してきており、お金を所持したり、使える方がいないため所持金は職員が預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	耳が遠い方だったが、家族と電話で話をする事が出来た。手紙については知り合いの方からの手紙に対して直筆で返事を書ける方は書いて頂き、年賀状は口伝えの言葉を代筆して書いて出すことができた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に共同空間であるホールでは、音楽を常に流すようにし、楽しい雰囲気作りをしている。また季節の花や時折々の飾りつけをして、季節感を感じるようにしている。 共同空間はカーテンや照明の数で明るさを調節したり、トイレや浴室は常に清掃し、清潔を維持している。	ホールには観葉植物や花瓶が置かれ、七夕やクリスマス飾りを作成して飾られており、季節を感じられる空間となっている。トイレや浴室は常に清潔に保たれている。テーブルには飛まつ防止用パーテーションが置かれ、感染予防には十分に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の希望によってホール内で皆と一緒に過ごしたり居室で一人過ごしたりしている。 ホール内では人間関係に配慮しながら随時席の移動等も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人が使い慣れたテレビや家具を持参し、自宅と同じように暮らせるように工夫している。また、本人の体調を考慮し、空気洗浄機や加湿器などを持ち込んでいる方もいる。 利用者によっては居室に家族の写真や手紙を貼ったりして、家族との絆を深めている方もいる。また自身が作成したパッチワーク作品を飾っている方もいる。	居室にはクローゼットと暖房が備え付けられており、利用者はベッドやテーブル、衣装ケース等を持ち込んでいる。テレビや加湿器等を持ち込む方もいる。室内には家族写真やパッチワークの作品等が飾られて、居心地の良い空間となっている。	

令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らせるように動線上に余計なものは置かないようにし、転倒やケガのないようにしている。 トイレが分かるように大きく書いておくようにしている。		